初版発行日　2023.2.20

環境経営レポート

取組期間
2022年10月～2022年12月

翔栄建設株式会社　　中松川1堰堤工事

目　次

事業の概要	P1
EA21推進体制	P2
環境経営方針	P3
環境経営目標（全　社）	P4
環境経営活動計画	P5
環境目標の実績、評価と今後の取組内容	P6
具体的な取組状況	P7.8.9.10
環境法規類の一覧及び遵守評価	P11
代表者による全体の評価と見直し記録	P12

事業の概要

（1） 事業者名　　翔栄建設　株式会社

代表取締役　岩本　敏則

（2） 所在地

本社　　〒869-1503 熊本県阿蘇郡南阿蘇村大字吉田2026-3
資材置場　　〒869-1503 熊本県阿蘇郡南阿蘇村大字吉田2117-1

（3） 環境保全関係の担当者連絡先

環境管理責任者　:総務部/取締役　岩本　晴美
連絡担当者　　:総務部/営業次長　松本　敬二
連絡先　TEL:0967-62-9071　　FAX:0967-63-3017

（4） 事業規模

資本金　　20，000千円
社員数　　25名　本社
売上高　　1，050，999千円

（5） 事業内容

建設業
土木工事、舗装工事、水道施設工事

（6） 許可業種

知事許可（特定建設業）　第 5056 号
土木、舗装、建築、管、水道施設、とび、土工、鋼構造物、解体工事

産業廃棄物収集運搬業許可　許可番号　第 04300051839 号
※産廃の収集運搬は自社運搬のみ。

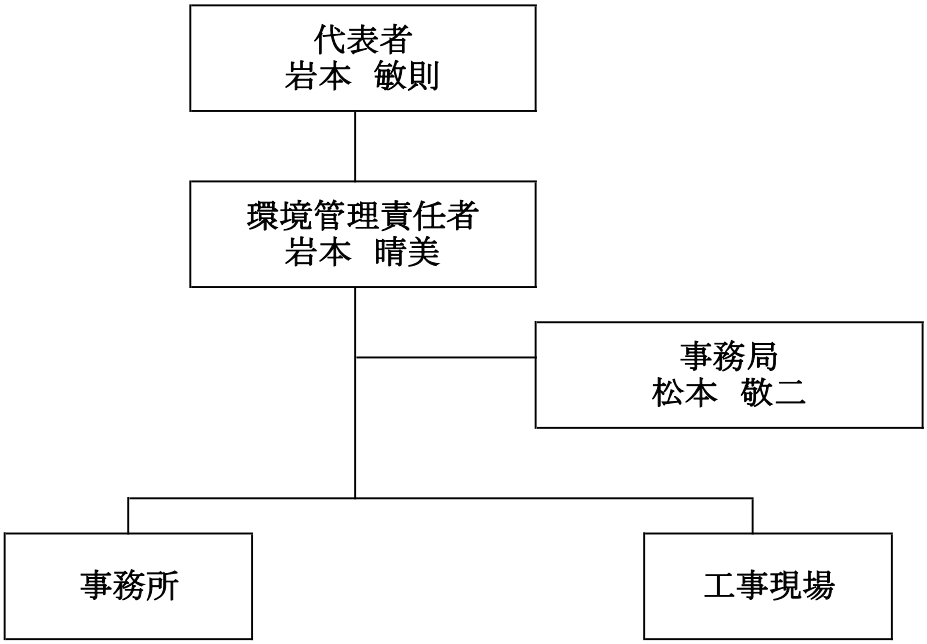
（7） 運用期間

期首　7月　期末　6月

（8） 認証登録範囲

翔栄建設株式会社は全組織、全活動を認証登録範囲とする。
同敷地内に白水DHCの建物があって、電気使用量は合算している。

翔栄建設(株)推進体制



代表者	・環境方針の制定 ・環境組織の明確化、必要な資源の投入 ・全体の評価と見直し
環境管理責任者	・マネジメントシステムの構築、実施、維持 ・目標管理表の作成と進捗管理 ・目標に対する実績や問題、改善等の社長報告 ・環境コミュニケーションの総括窓口 ・教育・訓練の総括(緊急事態の想定、訓練含む)
事務局	・集計表作成 ・文書、記録作成 ・環境活動進捗の把握
事務所責任者 部門責任者	・環境活動の社員への周知・徹底 ・環境管理責任者への報告 ・改善提案のまとめと提言
社員	・環境活動の実施 ・部門責任者への報告 ・改善提案

環 境 経 営 方 針

環境理念

翔栄建設株式会社は、建設業に携わる事業者として、人と自然を大切にしよりよい、環境の創造及び地域社会に貢献することを目指すため、環境経営保身を定め、以下の事項について積極的に環境に配慮した工事に取り組み、環境にやさしい活動を推進する。

行動指針

（1）二酸化炭素排出量の削減
・電気　ガソリン　軽油等の消費に伴う二酸化炭素排出量の削減に取り組みます。

（2）廃棄物の削減
・事業活動に伴う産業廃棄物について、分別回収による資源の有効活用に努めます。
・一般廃棄物の分別活動を推進して、適切なリサイクルに努めます。

（3）水使用量の削減
・井戸水使用時の水量を削減し、総排水量の削減に努めます。

（4）地域貢献
地域の清掃活動を実施して、地域に貢献していきます。

（5）環境関連法規制の遵守
・事業に関する環境関連法規制等を遵守します。

（6）環境に配慮した工事
・「創意工夫・社会性」「環境対策・工期短縮」や「手直し工事・事故ゼロ」に努めます。

社員全員がこの環境経営方針を認識し、全員でEA21に取組んでいきます。
PDCAを回すことにより、環境経営の継続的改善に努めます。

制定：2022年　9月28日
翔栄建設株式会社
代表取締役　　岩本　敏則

環　境 経 営 目　標（全 社）

会計年度　期首:7月　期末:6月

		実績	環境目標		
		2021年度	2022年度	2023年度	2024年度
番号	項目	基準年実績	環境目標	環境目標	環境目標
1-1	二酸化炭素排出量	237,341 kg－CO2	基準年度実績 の１%削減 234,967	基準年度実績 の2%削減 232,594	基準年度実績 の3%削減 230,221
1-2	電気使用量の削減	22,327 kWh	基準年度実績 の１%削減 22,104	基準年度実績 の2%削減 21,881	基準年度実績 の3%削減 21,657
1-3	ガソリン使用量の 削減	9,312 ℓ	基準年度実績 の１%削減 9,218	基準年度実績 の2%削減 9,125	基準年度実績 の3%削減 9,032
1-3	軽油使用量の削減	77,910 ℓ	基準年度実績 の１%削減 77,131	基準年度実績 の2%削減 76,352	基準年度実績 の3%削減 75,573
2-1	一般廃棄物の リサイクル推進	5.76kg	分別活動 の推進	分別活動 の推進	分別活動 の推進
2-2	産業廃棄物の リサイクル推進 （建設リサイクル法）	4,612.9t	リサイクル率 100%	リサイクル率 100%	リサイクル率 100%
3	水使用量の削減	井戸水	節水活動 の実施	節水活動 の実施	節水活動 の実施
4	地域貢献	地域清掃	１回/年	１回/年	１回/年

☆電気のCO2排出係数は、2019年度調整後係数0.532kg-CO2/kwhを使用
☆灯油は季節性があり少量なので、目標委は設定せず、日常で管理していく。
☆CO2排出量には、灯油を含めて管理していく。
☆環境経営の観点から考慮して、一般廃棄物は行動目標とする。
☆水は井戸水を使用しているがメーターがないため、目標は節水活動の実施を掲げる。
☆化学物質の使用はなし。
☆二酸化炭素排出量＝電気使用量×0.532＋ガソリン使用量×2.32＋軽油使用量×2.58

環境経営計画　2022年10月から12月

項　　目	具　体　的　な　活　動	頻度	事務所	工事部
１．二酸化炭素排出量	①昼休みの消灯	毎日	○	○
	②使用時以外のトイレの消灯	毎日	○	○
1-1. 電気使用量	③ＯＡ機器, 空調機の退社時の電源オフ	毎日	○	○
の削減	④空調機の室内温度設定・実施の徹底	毎日	○	○
	⑤空調機フィルターの定期的清掃	年2回	○	○
	⑥日よけ、ブラインドによる室温上昇防止（夏季）	毎日	○	○
	⑦使用しない設備・機械の電源遮断、プラグ抜き	毎日	○	○
	⑧節電表示の徹底	毎日	○	△
	⑨使用時季(夏(湿度)･冬)室内温度による対策	毎日	○	○
1-2　ガソリン使用料	①社用車エコドライブの推進・徹底（アイドリングストップ、経済運転など）	毎日	△	△
の削減	②車両点検の実施（車の状況、タイヤ空気圧チェックなど）	毎日	○	○
	③低燃費代車を増やす	将来	—	—
	④社用車の車両別燃費の把握及び運転日誌	毎月	○	○
	⑤ドローンでの現地調査	適時	—	○
1-3. 軽油使用量の削減	①社用車エコドライブの推進・徹底（アイドリングストップ、経済運転など）	毎日	△	△
	②車両点検の実施（車の状況、タイヤ空気圧チェックなど）	毎日	○	○
	③低燃費代車を増やす	将来	—	—
	④社用車の車両別燃費の把握	適時	○	○
	⑤リース機械等の低燃費	適時	—	○
	⑥使用前後の機械の点検	適時	○	○
２．廃棄物のリサイクル化	①廃棄物の分別促進	毎日	○	○
と廃棄物排出量	②リサイクル促進	毎月	○	○
の削減	③適切な業者の選定と引渡	適時	—	○
（一般・産廃共通）	④マニフェスト伝票の適切な管理	適時	○	—
３．水使用量の削減	①節水ステッカー表示	毎日	○	○
	②節水の工夫と実施（適量の給湯、出しっ放し防止など）	毎日	○	○
４．地域貢献	①ボランティア活動の実施	年1回	○	○

評価基準　○：出来た
△：改善の余地あり
×：出来なかった

環境経営目標の実績、評価と今後の取組内容

取組期間：2022年10月～2022年12月（2022年度）

項　目	2021年10月~12月の3ヵ月基準値	2022年10月~12月の目標値	2022年10月~12月の試行期間実績値	達成度	判定	評価及び今後の取組み内容
CO2排出量（kg-CO2）	65,074	64,423	48,410	133%	○	CO2排出量は達成できた。 電気：環境活動（省エネ）に取り組んだ効果があった。 ガソリン：工事場所への距離が遠くなり、使用量が増加した。 軽油：時期的により工事内容が異なるため重機使用が減少した。 まだ、取組みが浅いので、今後は社員の意識向上に努めていく。
電気使用量 （kWh）	5,003	4,953	4,603	108%	○	
ガソリン使用量（ℓ）	2,657	2,630	2,757	95%	×	
軽油使用量 （ℓ）	21,505	21,290	15,127	141%	○	
一般廃棄物のリサイクル	0.4kg	分別活動推進	分別活動推進を実施した	100%	○	分別活動推進できた。（写真参照） 社内文書は裏紙使用を徹底 工事現場では、建設リサイクル法を順守するために保管場所の確保や分別活動の推進を実施した。 今後共、分別活動を徹底していく。
産業廃棄物のリサイクル	250t	建設リサイクル廃棄物のリサイクル化 100%維持	建設リサイクル廃棄物のリサイクル化 100%維持	100%	○	
水使用量	井戸水	節水活動の推進	節水活動を推進した。	100%	○	節水活動を推進できた。 今後共、社員の意識向上に努めていく。
地域貢献	地域清掃	1回/年	清掃活動を実施した。	100%	○	今後共、清掃活動を推進していく。
						※試行期間中のため3ヵ月の取り組み（実績）報告

具体的な取組状況　※1例です。

①CO2排出量削減

②水使用量削減

③分別活動の推進

ペットボトル、カンビン、燃えるゴミ

ガラス、ペットボトル、小金属

⑤地域貢献

ボランティア活動（道路清掃）

森林づくり植栽活動

環境に配慮した工事

環境法規の遵守評価等

遵守評価の結果、環境法規の違反はありません。また、関連機関からの指導や訴訟もありません。

作成日：2022年　10月　1日　　遵守評価日：2023年1月22日

法規制等	適用内容	対象設備、施設	届出	遵守事項 （法規制/自主規制）	頻度等	記録	遵守評価	コメント
家電リサイクル法	テレビ、（小型）エアコン使用	テレビ、	ー	1.リサイクル料支払い（発生時のみ） 2.廃棄時の適正処置（発生時のみ）	廃棄時 廃棄時	リサイクル券 領収書	○ ○	該当なし 該当なし
PCリサイクル法	PC、周辺機器使用	パソコン類	ー	2.廃棄時の適正処置（発生時のみ）	廃棄時	領収書	○	該当なし
自動車リサイクル法	公用車の適切な廃棄	公用車	ー	1.リサイクル料支払い（発生時のみ） 2.廃棄時の適正処置（発生時のみ）	支払い時 廃棄時	領収書 業者報告書等	○ ○	該当なし 該当なし
フロン排出抑制法	業務用エアコンの廃棄	業務用エアコン 室外機 （フロン使用）	ー	1.定期点検の実施（3ヶ月毎） 2.廃棄時の適正処理（発生時のみ） 処理委託書提出、処理報告書の受理	適時（3ヶ月毎） 廃棄時	点検表 領収書、業者報告書等	○ ○	該当なし 該当なし
建設リサイクル法	建設（土木）工事に係る資材の再資源化の促進	土木工事資材	ー	1.土木工事に係る分別、再資源化の実施 2.対象工事の7日前までの市町村長への届出 3.再資源化完了の書面報告	対象工事実施時	施工計画書	○ ○ ○	
騒音規制法	土木工事における騒音規制の順守	特定建設作業	○ ○	1.規制基準に従った施工方法の実施 2.適切な工事時期の設定	対象工事実施時	施工計画書	○ ○	
振動規制法	土木工事における振動規制の順守	特定建設作業	○ ○	1.規制基準に従った施工方法の実施 2.適切な工事時期の設定	対象工事実施時	施工計画書	○ ○	
廃棄物処理法	産業廃棄物の保管	産業廃棄物置場	ー	1.表示板の設置 2.清掃、漏洩防止	設置時 1回/月（確認）	（表示板） ー	○	
	委託契約書	委託業者	ー	1.委託契約書（書面）	契約時	委託契約書	○	
	マニフェスト伝票管理	委託業者		1.マニュフェストの発行（A票） 2.各票の受領確認、、管理（A,B2,D,E票）	処理委託時 発行後	マニュフェスト伝票 マニュフェスト伝票	○ ○	
	産業廃棄物の運搬	運搬作業	ー	1.産業廃棄物運搬の表示 2.マニフェスト伝票の携帯	運搬時 運搬時	掲示 マニュフェスト伝票	○ ○	
	産業廃棄物管理票交付等状況報告	産業廃棄物	ー	1.マニフェスト伝票の集計（4月～翌年3月の1年分） 2.マニフェスト伝票の携帯（同年4月～6月に届出）	1回／年 1回／年	産業廃棄物管理票交付等状況報告書	○ ○	
消防法	危険物（軽油）管理	軽油スタンド （地下タンク）	○	1.規定保管数量の遵守 2日常の漏洩確認（供給量の確認） 3.法定漏洩試験	毎日 毎日 1回／5年	メーター目視 メーター目視 試験成績書	○ ○ ○	
大気汚染防止法 粉塵対策	CO2削減 建物解体	建設機械	○	1.規制基準に従った施工方法の実施 2.適切な工事時期の設定	対象工事実施時	施工計画書	○ ○	
水質汚染防止法	河川・道路工事	建設機械	○	1.規制基準に従った施工方法の実施 2.適切な工事時期の設定	対象工事実施時	施工計画書	○ ○	

代表者による全体の評価と見直し記録

1. 全体の評価　　報告:松本

No.	評価事項	評価結果(指摘事項)	改善内容	期限	改善責任者
1	環境関連法規等の遵守状況	遵守できている。 特に問題はなし	これからも遵守していく。		
2	環境目標の達成度 活動の進捗状況等の確認	①CO2排出量削減で、電気使用量、軽油使用量、CO2排出量が目標を達成できた。 ②ガソリン使用量の項目の目標は未達成だった。 ③環境活動は、取組みを実施した。	電気の環境目標達成率は100% ガソリンの環境目標達成率は100% 2項目は年度末に目標達成に努める。 軽油は、経過を見守る。	令和5年 7月30日	環境管理責任者
3	環境に関する苦情や要望対応状況	苦情・要望などは発生していない。	今後も発生しないよう環境及び地元区長など連携を図る		
4	前回の代表者の指示事項への対応	今回は初年度につき、なし			
5	その他指示事項	軽油については工事内容により異なるため、前年度との比較の分析が必要である。			

2. 全体の評価と見直し　　実施日:2023.2.15　　代表取締役　　岩本　敏則

全体の評価

従来から環境保全については都度、取組んできた。良く分からないままで必死に
やってきた。環境目標については、社員教育が十分ではなく目標を達成できなかった事が考えられる。
ほとんどの項目で環境目標を達成できたので、今後の推移を見守りたい。
これからがスタートだと考え、少しでも環境保全に寄与していきたい。

見直し事項

No.	環境ﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄｼｽﾃﾑの見直し事項	見直し結果	改善内容	期限	改善責任者
1	環境経営方針、環境経営目標、環境経営計画の変更の必要性	今回は運用開始してまもないので 変更の必要性なしと判断する。			
2	環境経営システムの変更の必要性	今回は運用開始してまもないので 変更の必要性なしと判断する。			
3	実施体制	今回は運用開始してまもないので 変更の必要性なしと判断する。			